それでも、言葉を (3)

鷲田 清一

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

段落	内容
1～5	**導入** 筆者は新聞で誰かの言葉の一節を紹介するコラムを担当している。このところ言葉を選ぶことがしんどくなる日がある。 **言葉の惨状** 言葉がむき出しで人にぶつけられるようになった。(言葉の暴力、横暴)。一方で、言葉の無力に打ちひしがれ、口をつぐんでしまう人もいる(言葉の無力、喪失)。
6～10	**SNSの普及と言葉の変化** 絶えず言葉を発する傾向がSNSの普及でエスカレートし、言葉を受け取る側も言葉をのみ込むことなく反射的に言葉を返してしまっている。 言葉が音や文字として届けば言葉が伝わったのだという錯覚、わかってくれて当然という甘えが言葉を通じにくくさせている。 **言葉の肌理** 言葉には言いたいこと(言葉の意味)だけでなく、言いたいという気持ちも含まれており、それは言葉の肌理となって現れる。相手の言葉の背景にあるものに想像力を向けることがなければ、言葉の意味だけをぶつけ合うことになってしまう。
	言葉の二極化の背後にある社会の変化 わかりやすさや反応の速さが求められ、言葉にじっくり向き合う時間や余裕がなく、社会がグレイな対応を許さなくなっている。 **価値の二極化** わかりやすさが善い、わかりにくさは悪い、という社会になり、わかりやすい言葉や説明にすぐに飛びついてしまう。
11～14	**言葉の可能性** 戦争の足音が響いてきている今、言葉の無力にうなだれてばかりいてはならない。どんなときも言葉の力が人々を支えてきた。 **言葉の厚み** 言葉と思考が二極化した時代だからこそ、「間」に息づく言葉、多様なグラデーションを許容する言葉のありようが求められる。 **筆者のコラムと思い** コラムでは一瞬意味のつかめないような表現、逆説、言外に含みや毒のある言葉を用いている。 私の見つけた言葉がきっかけとなり、誰かを支えられたらよい。

(1～14は教科書本文における形式段落番号を表します)

確認テスト

教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の内容は、言葉の暴力と無力のどちらの事例として挙げられているか。言葉の暴力なら**ア**、言葉の無力なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① 言葉がむき出しで人にぶつかるようになった。
② 言葉に何かを託すことをあらかじめ断念した人たち。
③ 言葉であおる人たち。
④ 言葉の前で身をひく人たち。

①［　　］ ②［　　］ ③［　　］ ④［　　］

(2) 言葉の二極化と連動している価値の二極化について、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 社会が変化して反応の速さが求められる時代になっているにもかかわらず、人々が言葉をのみ込んで口ごもるようになったため、社会の問題への対処が困難になった。
イ ファクトかフェイクか、ラブかヘイトかといった二極化が進み、人々の価値が多様になったため、わかりにくい言葉があらゆる場面で頻繁にみられるようになった。
ウ わかりやすさが善くて、わかりにくさは悪いという価値観が広まり、現実の社会での正解がない問いにわからないまま向き合い続ける知的耐性が失われている。

［　　］

(3) 言葉について、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア SNSの普及によって、本気で何かを訴える切実な思いから発せられる言葉が大量にみられるようになった。
イ 言葉には言いたいことだけではなく言いたいという気持ちも含まれており、それは言葉の肌理となって現れる。
ウ 今の時代、間に息づく言葉や、言葉のもつ独特の厚みが大切で、曖昧さのないわかりやすい言葉が求められている。

［　　］